

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400976		
法人名	有限会社マザーズ		
事業所名	グループホーム円頓寺本館 (2F)		
所在地	名古屋市西区新道1-3-12		
自己評価作成日	平成27年11月23日	評価結果市町村受理日	平成28年12月 2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&jigyouvoCd=2370400976-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年12月 7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人通りも多く、賑やかな雰囲気であった商店街の時とは違い、今の本館は閑静な住宅街の中にあり、こちらから積極的に行動を起こさないと、なかなか地域に馴染んでいけない環境であります。地域の中で住人さんの途切れてしまった人間関係の再構築や新たな人間関係を作るお手伝いが出来ればと思います。現在の取り組みとして、法人内の他事業所と連携し、中学校での認知症サポーター養成講座の開催や実習生の受け入れ、近隣のキッズステーションとマザーズの畑に行く企画、保育園との交流行事、地域住民も交えた合同イベントの開催、町内の行事の参加、等世代間を超えた人間関係作りができるよう取り組みをしています。住人さんが「人生楽しく自分らしく」の生活を送れるよう、ご家族様やご近所さんそしてスタッフ職員と共に地域に根ざしたホームを皆で作っていきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念である「人生楽しく 自分らしく」を道しるべに、利用者の自立支援を目指し、利用者の「普通の暮らし」を、家族や地域を巻き込み、利用者を支える環境づくりに取り組むホームである。また、職員と利用者が一緒に楽しめる、笑顔に満ちた、遊び心の中にもサービスの方針の輪郭がはっきりと見えるホームである。
ホーム長は着任から5カ月と程ないが、昨年11月のホーム移転、加えて1ユニット増設の2ユニット運営という、新設と何ら変わらぬホームを切り盛りしている。移転後の地域交流も進み、町内会長の協力も得られ、地域行事とホーム行事を通じた交流を行っている。ホームへの地域住民の来訪も多く、地域資源としての役割を果たしている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人生楽しく自分らしく」の法人理念のもと、自分らしく生きがいを持って生活出来るよう、理念を反映したケアプランを作成し、共有、実践している。月1回の面談にて職員が理念に沿った関わりが出来るように目標設定をしている。	法人理念「人生楽しく 自分らしく」を、利用者の自立支援を目指して取り組んでいる。『待つ』『やってみよう』の実践、一人ひとりの時間を大切に生活の実践を共通意識として、日常支援に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住人様の町内会への正式な参加手続きを済ませ、運動会や敬老会等地域高齢者の集まり等に積極的に参加している。11月には芋煮会を開催し、地域住民の方々にも多数の参加をいただいた。	地域に在る法人内他事業所と合同で、交流する機会を作っている。法人の催しは地域でも認知され、多数の参加がある。また、利用者は地域の老人会に参加して一住民として交流がある。その他、中学校の職場体験受け入れ等、社会貢献もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接する菊井中学校の学生さんに向けた認知症サポーター養成講座を管理者が講師となって開催し、地域の若い世代に認知症を理解してもらう為の活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民の一員として出来る事はないか話し合い、提案・相談・報告・共有を行っている。ご家族様や地域の方からのサービスに関する意見を頂戴する有意義な場となっており、意見を基にさらなる改善に繋げている。	家族の参加を増やし、共に利用者サービスを考える機会となっている。町内会長、民生委員等の地域からの参加者は、地域とのつきあいの拡大に情報を提供する協力がある。運営への意見や提案も多く、サービスの向上と改善に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方との連携、その他の高齢福祉にかかわる事など相談・連絡している。	運営に関する相談・報告が主な連携となっている。適切な助言を受け、運営に反映させている。生活保護受給者受け入れの関係では、区役所の保護課との連携がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	普段から玄関等の施錠はしておらず、センサー等の安全対策を施した上で住人様及び家族や地域の方が自由に出入りできるように努めている。また、スタッフ全員が身体拘束の禁止に関して理解する為、具体例を提示しながらユニット会議等で話し合い、随時情報の共有に努めている。	拘束をしない介護について、職員会議に取り上げ、意識統一を図っている。現在、安全確保を含む拘束に該当する事例はない。法人研修参加やケアカンファレンスでの事例検討等、意識の高い取り組みがある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外での研修や勉強会、ユニット会議等で「虐待」とは何かを学ぶ機会を設けている。また、高齢者施設での虐待のニュース等が出る度に内容について周知を図り、自らのケア、関わりを見つめなおす機会としている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外での研修や勉強会、ユニット会議等で学ぶ機会を持ち、活用している。また、関係担当者の方から直接話を聞く時間を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には本人、家族に実際に施設に来て頂き、住人様の生活の様子を見て頂いた上で、不安や疑問点を伺い、入居後の生活を丁寧に説明している。解約や改定においても十分に説明をし、納得していただけるように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	住人様やご家族様から意見や要望を吸い上げ、運営に反映できるよう努めている。また、ご家族、住人様に地域運営推進会議の参加をお願いしたり、法人全体や本館で家族会を開催する等、施設運営に対する意見を伺う場としている。	運営推進会議やホーム行事への参加、家族会参加等の機会に、直接の意見聴取を行っている。面会時や電話連絡時には、個別の意見聴取に努め、運営や個人支援に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半期に一度の法人による職員対象のアンケート実施、月に1度の管理者による面談の場を利用してスタッフの意見や提案を聞く機会とし、運営の改善へと繋げている。	ユニット会議を主に、職員意見や提案を聴取し、運営や支援に反映させている。職員は年度の個人目標を持ち、毎月目標の検証を行う仕組みがある。モチベーション確保に大いにつながる仕組みであり、自身の意見が現実化することにやりがいを見出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人代表者が月に1度事業所を訪問し、管理者の声を拾う機会を設けている。半期に一度の職員アンケートにより、職員の声を管理者にもフィードバックし、職場、職員の環境改善に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ1人1人の得意分野や必要な知識を把握し、研修を受講しやすい機会を作り提案している。研修に参加したスタッフには会議の場で発表をしてもらっている。また、月毎に法人全体での研修がある。全員に周知し、参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1度、地域のグループホームと一緒に研修をする機会を設け事例検討や外部講師の研修を実施している。また、外部研修での情報や参加機会を設けている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言動の背後にある不安な気持ちを汲み取り傾聴、共感し、時には本人の自宅近くまで何度も一緒に歩いたりしながら、家に帰りたいという気持ちを抑制するのではなく、気持ちに寄り添うように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員が聞いたご家族の要望などをノートにまとめ、管理者が必要に応じご家族からお話を聞く機会を設けている。ホームで行われるイベントにお誘いしたり、法人が定期的に開催する家族会で意見をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人に関するアセスメントなどの情報を職員間で回覧し、必要な支援を見極めている。来訪されるご家族様の話にも耳を傾け、ご家族が望まれていることを知るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理の得意な方には一緒に食事作りをして頂けるように働きかけたり、一緒に洗濯干しをしたり居室掃除を行っている。足の不自由な方には座ったままで出来る家事と一緒に行ない、ほとんどの方が何かの役割を持っていたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時にはご家族の方にも一緒におやつを召し上がって頂きながらリビングで他の利用者の方や職員と団欒の時間を持っていたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なるべく近所のスーパーを買い物をしたり、地域のイベントに参加している。9月には瀬戸が故郷の二人の方と瀬戸物祭りに出掛けるなど、本人から聞いた馴染みの関係とのつながりを意識した外出計画を行っている。	法人内のデイサービスを利用していた利用者は、入居後も馴染みの仲間と仲良く交流したり、馴染みの喫茶店、床屋、墓参り等へ家族や職員と出かけた。馴染みの継続の事例は多い。本人からの意向がある限り、馴染みの支援を継続する共通意識がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席は必要に応じ自由に座って頂いている。食事の配膳なども互いに助け合い、支え合う機会となっている。身体の不自由な利用者様に、他の利用者様がお茶を入れてあげるという関係が出来ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	2Fでの契約終了はないため、経過フォローの必要が無い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当者が中心となって、本人の思いや希望を引き出しスタッフ全員が本人の思いに沿った支援が出来るよう努めている。またチームワークにつながろう努めている。また、記録には本人の言葉を多く残すよう努めている。	支援を押し付けるのではなく、利用者本人の力が発揮できるように支援する方針を共有し、『待つ支援』を実践している。職員が『待つ』ことにより、利用者は意思を表出でき、思い通りにしようと動き始める。それが本人本位であると意識している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やキーパーソンだけでなく、本人に関わる方々から情報収集する事で今までの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスや日々の申し送り等を通じ、本人の現状把握に努めている。また日々の中で得た情報を支援経過記録やケア日誌に記入している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、スタッフ、主治医や地域関係者など関わるすべての人と、カンファレンスを通し話し合いケアプランへ繋げている。	本人の力が発揮できるように、毎月のユニット会議でケアカンファレンスを実施している。モニタリングを毎月行い、介護計画の進捗を検証するとともに、利用者の状態変化を把握し、見直しにつなげている。	現在課題となっている、定期的な見直しについて、今後の実践が期待される。また、介護計画立案までが職員主導となる現状が否めないことから、更新時のサービス担当者会議開催等、本人・家族参加のケアカンファレンス開催が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	意味のあるケア日誌が必要な為、記入方法や件主を通して、再確認しさらに、ユニット会議や個別の面談の際に振り返る事を行っている。またケア日誌を元に申し送る事で、スタッフ全員の情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフや家族の気づきや、本人の状態変化など、ニーズを把握し必要に応じてサービス内容の見直しを行っている。また固定観念にとらわれないよう多面的な角度を意識して支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常的に情報を収集し、利用者本人から地域との関わりが持てるような声かけや、環境づくりに努めている。また事業所としてなにか地域に貢献できないか常に検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診にて心身の状況を診察して頂き日常的に電話・ファックスにて連絡・相談を行っている。また、専門的な検査や治療が必要な場合は往診医師紹介のもと他の医療機関への受診も行っている。	かかりつけ医は利用者、家族の選択としている。現在は全利用者がホームの協力医をかかりつけ医としている。協力医の月2回の往診を支援し、医療連携を図る同法人内の訪問看護師が週一回利用者の健康管理を行う等、利用者・家族の安心に込めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、看護師が出勤し、報告・連絡・相談を行い連携を図っている。また必要であれば往診先の看護師が処置など行う場合もある。また、転倒や発熱、嘔吐等があった際にはすぐに訪問看護と連絡が取れる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	スタッフが家族と共に医療関係者と連絡・相談を行う事で安心して治療出来るよう努めている。また入院中の衣類洗濯や病院との情報交換も家族と協力して行う事で家族側の安心にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りに関しての意向を本人家族と共に書面で確認し、事業所で出来る範囲を十分に説明する。また終末期を迎えた際は、再度意向の確認、医療や地域との連携を図り、本人や家族の医師に添えるよう努めていく。	本人と家族の意向に沿って、ホームが出来る限りの支援を行うことを方針としている。必要時には医師がケアカンファレンスに参加し、家族を交えて話し合いを重ね、支援方針を決定している。今年度も2名の看取りの事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応方法や連絡の手順、事故発生時の初期対応と手順については、日常的に確認し必要があれば見直しを図っている。また急変時、事故後は振り返りを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練、日長物品の確保、水害時の土嚢や土嚢に代わるものの把握等会議や件主を通して周知している。地域とは地域運営推進会議を通じて避難場所の確認や災害の恐れの場合などの共有を行っている。	年2回の避難訓練を実施している。消防署の立ち合いを受け、避難経路の確認や一次避難場所の確認を行い、有事に備えている。飲食料の備蓄も進み、高い意識の取り組みがうかがえる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な親近感を持ちながらも、目上の方に対する敬いの気持ちを持った言葉遣いに心掛けています。決して命令口調にならないようにし、ご本人の尊厳を損なわないように配慮している。	日常支援は利用者のペースを重んじ、職員都合とならないように心掛け、本人本位のサービス提供を実践している。本人の能力や個性をいかに引き出すかを意識した支援提供で、利用者の普通の暮らしの体現に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば、朝食をパンかご飯か選べるようにしたり、食事のメニューを決める際に希望をお聞きしている。毎朝着る服をご本人が選べるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは決まっていない。本人の体調、気分、天候に合わせて外出の計画を立てている。入浴も順番は決まっていない。午後から入浴したいという希望があればそれに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所での朝の口腔ケアの後にヘアブラシをお渡しする等、整容を行う機会を作っている。カットボランティアをお招きし、整髪できるようにしている。洋服の汚れなどがあった時には、更衣の機会を持てるようさりげなく支援する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は決められていないため、その日食べたい物を利用者様にお聞きしながらメニューを決めている。青魚が食べられない方の為に、代替りの魚を用意したり、一人ひとりに柔軟に合わせた献立にしている。	利用者は台所に立ち、包丁を使い、調理を担当し、それぞれの得意分野で活躍している。利用者の残存能力発揮の場として、家族は本人の活躍する姿に驚く程である。メニューは家庭同様に、冷蔵庫の食材を見て利用者の希望を取り入れ、その日その時に決めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜の嫌いな利用者様に野菜を摂取して頂けるよう、職員で工夫している。必要に応じて水分量、食事量の記録をつけ、主治医に相談している。水分をこまめに摂取できるよう、各テーブルに給茶ポットを置いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人ひとりの状況に応じた口腔支援を行っている。STに口腔支援を実演してもらい、ユニット会議等で共有し、重度の方の口腔ケアの質の向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	頻尿の傾向のある方の座席をトイレに近い場所に変えたことで、本人が尿意を感じたときに手すりを使って自立でトイレに行けるようになった。	ケアカンファレンスで利用者一人ひとりの支援方法を話し合い、それぞれに合わせた適切な排泄支援に取り組んでいる。職員はトイレでの自立排泄の継続を目指し、必要以上の介助をせず、『待つ』支援を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分はこまめに摂取できるよう、各テーブルに給茶ポットを置いている。腸動が弱い方には腹部を軽くマッサージしたり、乳酸菌飲料を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番や時間はあえて決めていない。本人が入りたいという気持ちになるような声掛けに努めている。入浴支援をしながら昔の思い出話を聞いたり、一緒に歌を歌う等、入浴がコミュニケーションの場となるように支援している。	ホームでは毎日の入浴を提供し、個人毎には最低週3回の入浴を支援している。それぞれの希望の入浴時間や体調を考慮し、柔軟に対応するとともに、絶好のコミュニケーションの機会である事の意識を統一し、入浴が楽しみになる工夫を実践している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は本人のこれまでの生活歴により様々であることを踏まえ、一律の就寝時間は定めず、本人の状況、希望に合わせて就寝していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は常に最新のものをファイリングし、職員が確認できるようにしている。定期処方の変更時には、ケア日誌に記録するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話から、本人の張り合いとなる事、現在の生活の中でも楽しめることを見つけ、日々の生活で取り入れることが出来るように努めている。毎日食器拭きを自分の役割、生活の張り合いとしている利用者様がいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員が業務に追われるのではなく、少しでも利用者様と散歩や買い物などの日々の外出が出来るように意識している。外出の記録をつけ、外出支援が特定の人に偏らないようにしている。	個別支援が基本の方針で、利用者の希望に沿って支援している。日課の散歩、買い物、カラオケ、喫茶外出、外食、床屋、法人内行事、地域行事など車椅子の利用者も普通に外出することを当然と捉えて外出支援を行っている。また、ユニット毎、ホーム全体の行事外出も企画し、利用者の楽しみに応えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預かりしているお金は、本人の希望で自由につかえるようにしている。みかんを何箱か買って、ご近所のお世話になっている方に配った利用者様や、協会のバザーで気に入ったものを買った利用者様もいた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に電話をかけたいという申し出があった時はかけて頂いている。手紙をご家族あてに書いた利用者様もあり、封筒の宛先などの確認をさせて頂いた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには開放感のあるベランダがあり、自然光や外気をとりにいれている。落ち着きや温かみのある配色の家具で統一されている。室温は高齢の利用者様が快適に過ごせるようにこまめに温度調節をしている。	リビングの壁の大きな掲示用ボードに、利用者の思い出の写真を掲示し、居場所としての環境づくりを工夫している。掃除は利用者と一緒にいき、整理整頓されたスッキリした空間である。利用者はリビングのテーブルに集い、利用者同士で世話を焼き合い、お喋りを楽しみ、時には言い合いや喧嘩もかわし、家族のように過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	適度な広さのあるリビングで、席は基本的には自由であるため、思い思いの時間を過ごしていただいている。大きめのソファに腰かけ談笑する様子もしばしば見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様には、入居時に使い慣れたタンスなどを持って来て頂くことを提案しているが、居室の面積等の関係もあり、簡易な収納を持ち込まれていることが多い。仏壇や、家族の写真、趣味の書などを飾っている利用者様もいる。	筆筒、テレビ、ぬいぐるみ、鏡台等の使い慣れた家具や、化粧品や好みの洋服、趣味の物品を自由に持ち込んでもらい、利用者が今までの生活を継続できるような環境づくりを工夫している。視察したどの部屋も、利用者の暮らしぶりが想像できる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの案内表示は分かりやすく掲げられているため、トイレの場所を忘れてしまう利用者様にも案内しやすい。手すりが随所にあり、安全に配慮した造りとなっている。給茶ポットは利用者様に使いやすい大きさのものを使用している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400976		
法人名	有限会社マザーズ		
事業所名	グループホーム円頓寺本館		
所在地	名古屋市西区新道1-3-12		
自己評価作成日	平成27年11月23日	評価結果市町村受理日	平成28年12月 2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&jigyosyoCd=2370400976-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成27年12月 7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人通りも多く、賑やかな雰囲気のある商店街の時とは違い、今の本館は閑静な住宅街の中にあり、こちらから積極的に行動を起こさないと、なかなか地域に馴染んでいけない環境であると思います。
地域の中で住人さんの途切れてしまった人間関係の再構築や新たな人間関係を作るお手伝いが出来ればと考えています。現在の取り組みとしては、法人内の他の事業所と連携し、菊井中学校での認知症サポーター養成講座の開催や実習生の受け入れ、近隣のキッズステーションとマザーズの畑に行こう企画、保育園との交流行事、地域住民も交えた合同イベントの開催、町内の行事の参加、等世代間を超えた人間関係作りができるように取り組みをしています。住人さんが「人生楽しく自分らしく」の生活を送れるよう、ご家族様やご近所さん、そしてスタッフ職員と共に地域に根ざしたホームを皆で作っていきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人生楽しく自分らしく」の法人理念のもと、自分らしく生きがいを持って生活出来るよう、理念を反映したケアプランを作成し、共有、実践している。月1回の面談にて職員が理念に沿った関わりが出来るように目標設定をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住人様の町内会への正式な参加手続きを済ませ、運動会や敬老会等地域高齢者の集まり等に積極的に参加している。11月には芋煮会を開催し、地域住民の方々にも多数の参加をいただいた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接する菊井中学校の学生さんに向けた認知症サポーター養成講座を管理者が講師となって開催し、地域の若い世代に認知症を理解してもらう為の活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民の一員として出来る事はないか話し合い、提案・相談・報告・共有を行っている。ご家族様や地域の方からのサービスに関する意見を頂戴する有意義な場となっており、意見を基にさらなる改善に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方との連携、その他の高齢福祉にかかわる事など相談・連絡している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	普段から玄関等の施錠はしておらず、センサー等の安全対策を施した上で住人様及び家族や地域の方が自由に出入りできるように努めている。また、スタッフ全員が身体拘束の禁止に関して理解する為に、具体例を提示しながらユニット会議等で話し合い、随時情報の共有に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外での研修や勉強会、ユニット会議等で「虐待」とは何かを学ぶ機会を設けている。また、高齢者施設での虐待のニュース等が出る度に内容について周知を図り、自らのケア、関わりを見つめなおす機会としている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外での研修や勉強会、ユニット会議等で学ぶ機会を持ち、活用している。また、関係担当者の方から直接話を聞く時間を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には本人、家族に実際に施設に来て頂き、住人様の生活の様子を見て頂いた上で、不安や疑問点を伺い、入居後の生活を丁寧に説明している。解約や改定においても十分に説明をし、納得していただけるように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	住人様やご家族様から意見や要望を吸い上げ、運営に反映できるよう努めている。また、ご家族、住人様に地域運営推進会議の参加をお願いしたり、法人全体や本館で家族会を開催する等、施設運営に対する意見を伺う場としている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半期に一度の法人による職員対象のアンケート実施、月に1度の管理者による面談の場を利用してスタッフの意見や提案を聞く機会とし、運営の改善へと繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人代表者が月に1度事業所を訪問し、管理者の声を拾う機会を設けている。半期に一度の職員アンケートにより、職員の声を管理者にもフィードバックし、職場、職員の環境改善に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ1人1人の得意分野や必要な知識を把握し、研修を受講しやすい機会を作り提案している。研修に参加したスタッフには会議の場で発表をしてもらっている。また、月毎に法人全体での研修がある。全員に周知し、参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1度、地域のグループホームと一緒に研修をする機会を設け事例検討や外部講師の研修を実施している。また、外部研修での情報や参加機会を設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言動の背後にある不安な気持ちを汲み取り傾聴、共感し、時には本人の自宅近くまで何度も一緒に歩いたりしながら、家に帰りたいという気持ちを抑制するのではなく、気持ちに寄り添うように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員が聞いたご家族の要望などをノートにまとめ、管理者が必要に応じご家族からお話を聞く機会を設けている。ホームで行われるイベントにお誘いしたり、法人が定期的に開催する家族会で意見をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人に関するアセスメントなどの情報を職員間で回覧し、必要な支援を見極めている。来訪されるご家族様の話にも耳を傾け、ご家族が望まれていることを知るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理の得意な方には一緒に食事作りをして頂けるように働きかけたり、一緒に洗濯干しをしたり居室掃除を行っている。足の不自由な方には座ったままで出来る家事と一緒に行ない、ほとんどの方が何かの役割を持っていたいっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時にはご家族の方にも一緒におやつを召し上がって頂きながらリビングで他の利用者の方や職員と団欒の時間を持っていたいっている。ご家族にとっても居心地の良い環境となるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なるべく近所のスーパーを買い物をしたり、地域のイベントに参加している。また、本人から聞いた馴染みの関係とのつながりを意識した外出計画を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席は必要に応じ自由に座って頂いている。食事の配膳なども互いに助け合い、支え合う機会となっている。身体の不自由な利用者様に、他の利用者様がお茶を入れてあげるという関係が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りをした方の葬儀に参列したところ、御家族様がとても喜んでくださった。近年はお亡くなりになった方以外の契約終了はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひもときシートを使用する事で、本人の思いや希望を引き出しスタッフ全員が本人の思いに沿った支援が出来るよう努めている。またチームワークにつながるよう努めている。また、記録には本人の言葉を多く残すよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やキーパーソンだけでなく、本人に関わる方々から情報収集する事で今までの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の現状把握に努めている。また日々の中で得た情報を支援経過記録やケア日誌に記入している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、スタッフ、主治医や地域関係者など関わるすべての人と、カンファレンスを通して話合いケアプランへ繋げている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	意味のあるケア日誌が必要な為、記入方法や件主を通して、再確認しさらに、ユニット会議や個別の面談の際に振り返る事を行う。またケア日誌を元に申し送る事で、スタッフ全員の情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフや家族の気づきや、本人の状態変化など、ニーズを把握し必要に応じてサービス内容の見直しを行っている。また固定観念にとらわれないよう多面的な角度を意識して支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常的に情報を収集し、利用者本人から地域との関わりが持てるような声かけや、環境づくりに努めている。また事業所としてなにか地域に貢献できないか常に検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診にて心身の状況を診察して頂き日常的に電話・ファックスにて連絡・相談を行っている。また、専門的な検査や治療が必要な場合は往診医紹介のもと他の医療機関への受診も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、看護師が出勤し、報告・連絡・相談を行い連携を図っている。また必要であれば往診先の看護師が処置など行う場合もある。また、転倒や発熱、嘔吐等があった際にはすぐに訪問看護と連絡が取れる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	スタッフが家族と共に医療関係者と連絡・相談を行う事で安心して治療出来るよう努めている。また入院中の衣類洗濯や病院との情報交換も家族と協力して行う事で家族側の安心にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りに関しての意向を本人家族と共に書面で確認し、事業所で出来る範囲を十分に説明する。また終末期を迎えた際は、再度意向の確認、医療や地域との連携を図り、本人や家族の医師に添えるよう努めていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応方法や連絡の手順、事故発生時の初期対応と手順については、日常的に確認し必要があれば見直しを図っている。また急変時、事故後は振り返りを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練、日長物品の確保、水害時の土嚢や土嚢に代わるものの把握等会議や件主を通して周知している。地域とは地域運営推進会議を通じて避難場所の確認や災害の恐れの場合などの共有を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な親近感を持ちながらも、目上の方に対する敬いの気持ちを持った言葉遣いに心掛けている。決して命令口調にならないようにし、ご本人の尊厳を損なわないように配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者主体で、ケアに取り組んでいる。 想いを伝えられない入居者に関しては、生活歴、スタッフの気付き等から読み取る努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは決まっていない。本人の体調、気分、天候に合わせて外出の計画を立てている。入浴も順番は決まっていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者本人が好きな服を選んで頂くよう心がけている。支援が必要な方は起床時や入浴後に整容を行う機会を作っている。本人さんの衣服の購入希望があった際にはなるべく付き添いをし、お好きな物を購入して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者達に献立メニューを相談し、献立が決まった上で入居者全員と買い物や食事作りに取り組めるよう心がけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量の少ない方は主治医に相談し栄養補給剤の処方して頂いたり、好きな飲物や好まれる食べ物等を提供して支援している。必要に応じて水分量、食事量の記録をつけ、主治医に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後声かけをし、出来ない箇所は職員が支援させて頂いている。必要に応じて歯科衛生士による口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ユニット会議や申し送りの場で排泄パターンや習慣を職員間で共有するようにしている。なるべくパッドやオムツを使用しないで済むように意識して支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響について話し合ったり、食物繊維の多い食事や水分摂取を心がけている。必要に応じ主治医に相談し薬処方を依頼している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番や時間は決めていない。入浴が本人にとって楽しみの時間となるよう工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は本人のこれまでの生活歴により様々であることを踏まえ、一律の就寝時間は定めず、本人の状況、希望に合わせて就寝していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は常に最新のものをファイリングしている。ユニットにはお薬表が置いてあり、1カ月に1度更新し、職員が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	住人さんの訴えや生活歴、スタッフの気付き等から生活の中でも楽しめることを見つけ、日々の生活で取り入れることが出来るように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	住人さんの訴えや生活歴、スタッフの気付き等から行きたい所を聴取し、本人らしい外出が出来るように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員に自由に使えるお金がある。自身で少額管理されている方もみえる。管理が必要な方は、事業所や本部でお預かりし、必要な時に引き出せるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に電話をかけたいという申し出があった時は直接ご自分でかけて頂くこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべくエアコン等は使用せず、自然光や外気をとりにいれるようにしている。室温は高齢の利用者様が快適に過ごせるようにこまめに温度調節をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	適度な広さのあるリビングで、席は基本的には自由であるため、思い思いの時間を過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様には、入居時に使い慣れたタンスなどを持って来て頂くことを提案している。入居者自身が居心地の良い空間を作り出せるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全床面バリアフリーであり、手すりも随所にあり、安全に歩行出来る造りとなっている。浴室はリフト浴にも出来る造りとなっており、浴槽へのまたぎが難しくなってしまった方にも入浴出来る仕組みになっている。		